

住民と情報を共有して、住民の意見に謙虚に耳を傾け、批判を恐れず堂々と議論しましょう。優れた識見や能力を持つ住民を敬遠することなく発掘して、その力を借りましょう。

まずは、「住民の皆さんと情報共有する必要があります。『広報あいしう』の誌面で、毎月町長が行政の現状と課題を自分の言葉で語り掛けるとともに、「住みよいまちづくりへの提案」の仕組みをもつと使いやすくして、平素からご意見・ご要望を汲み上げなければなりません。

今必要なのは強い信頼関係に基づく「住民と行政の真の協働」です。いかに立派な計画を立てても、住民を巻き込めなければ達成は到底ムリです。

「住民との協働」なくして「まちづくり」なし!

過去の施策の延長線上に愛莊町の未来はありません。小学校の給食費無償化や子育て支援など国の施策を活用しながら、衆知を結集して実現すべきです。

そして何より、「子どもたちが健やかに育ち、将来に不安がないまち」にしなければなりません。

それこそが住民の皆さんに心から「住んで良かった、これからも住み続けたい」と思つていただける愛荘町の姿です。

(表1) まちづくり3計画の概要

	グランドデザイン2040	第2次総合計画(後期基本計画)	第3期みらい創生戦略
策定期間	2023(令和5)年3月	2023(令和5)年3月	2025(令和7)年3月
担当部署	グランドデザイン推進室 (建設・下水道課、みらい創生課)	みらい創生課	みらい創生課
対象期間	2023～2040年	2023～2027年度	2025～2027年度
位置づけ	・概ね20年後(2040年)を見据え、本町のまちづくりを進めるにあたっての根本となる考え方を示す。	・「愛荘町総合計画策定条例」(2017年3月)に基づき策定した本町のまちづくりの最上位計画。	・「総合計画」に掲げる重点戦略プロジェクトの実効性を担保するためのアクションプラン。
計画の推進	・地域と行政をつなぐ役割を担う中間支援組織の構築・協力のもと、相互の連携・交流による協働のまちづくりを実践していく。	・様々な情報媒体を活用し周知。PDCAサイクルに基づき、より効果的・効率的な計画の推進を図るとともに、その公表により、町民への説明責任を果たす。	・重要業績評価指標(KPI)を設定 ・PDCAサイクルによる進行管理 ・「みらい創生会議」において検証。
基本目標	【将来ビジョン】 「つながりを生む田園空間都市」	【まちの将来像】 「心ふれ愛・笑顔いっぱいの元気なまち」 【10年後のまちの姿】 「愛着と誇り。人とまちが共に輝く みらい創生のまち。」	【まちの将来ビジョン】 「つながりを生む田園都市空間」

(表2) 人口減少と人口構造の変化(人、%、ポイント)

年		2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060	
第2次総合計画 (後期基本計画) (2023年3月策定)	総人口①	21,476	21,731	21,832	21,801	21,687	21,512	21,255	20,890	
	人口目標	2060年に向け 人口20,000人の維持を目指す								
	年少人口率②	17.2	16.9	16.5	16.3	16.2	16.0	15.8	15.6	
	高齢化率③	22.7	23.0	23.8	26.2	27.7	28.8	29.2	28.4	
第3期みらい創生戦略 (2025年3月策定)	総人口④	20,962	20,874	20,721	20,522	20,229	19,856	19,377	18,804	
	人口目標	総人口2040年2.0万人の維持、2060年約1.9万人の確保								
	年少人口率⑤	14.5	12.8	12.6	12.8	12.9	12.8	12.3	11.8	
	高齢化率⑥	24.7	25.4	26.8	29.2	31.1	32.5	33.0	32.8	
人口減少の加速 ①—④		514	857	1,111	1,279	1,458	1,656	1,878	2,086	
年少人口率低下の加速 ②—⑤		2.7	4.1	3.9	3.5	3.3	3.2	3.5	3.8	
高齢化率上昇の加速 ③—⑥		▲2.0	▲2.4	▲3.0	▲3.0	▲3.4	▲3.7	▲3.8	▲4.4	

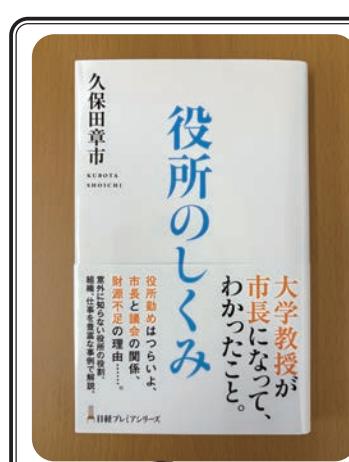
(注) 1. 「総人口」の赤字：人口ピーク
2. 年少人口率：総人口に占める0～14歳人口の割合 3. 高齢化率：総人口に占める65歳以上人口の割合

(表3) 目標値の達成状況と継続状況(件数、%)

	前回(前期、第2期)			
	目標値	達成状況		
		達成	未達成	判定不能
第2次総合計画	71(100.0)	12(16.9)	43(60.6)	16(22.5)
みらい創生戦略	54(100.0)	1(1.9)	4(7.4)	49(90.7)

	今回(後期、第3期)			
	目標値	継続状況		
		継続	新設	
第2次総合計画	71(100.0)	55(77.5)	16(22.5)	
みらい創生戦略	37(100.0)	5(13.5)	32(86.5)	

(注) 1. 「前期」「後期」は「第2次総合計画」、「第2期」「第3期」は「みらい創生戦略」。
2. 達成状況は、前期・第2期の「目標値」と後期・第3期の「現状値」「基準値」を比較して判定。
3. 「判定不能」は、前期・第2期の目標値が後期・第3期に継続されず、
おもに「現状値」「基準値」が不明のため。



仕事は「決断」することであり、結果の「責任を取る」ことだと説きます。

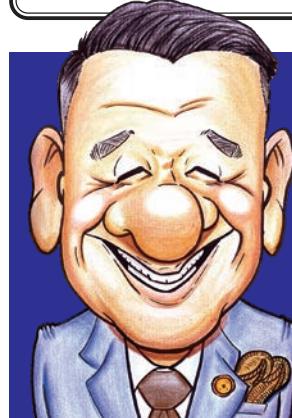
また、首長が勉強すべきこととして、①郷土の歴史・文化・人物に関すること ②人生論や組織経営に関すること ③新しい知識や施策のヒントに関することの三つを挙げています。

最後に、首長には、「なりたい人より、なつてほしい人」になつてもらうのが理想だと結んでいます。

一歩でも理想に近づけるよう、これからも精進し続けなければと覚悟を新たにしております。

「役所のしくみ」（久保田章市著、日経プレミアシリーズ）を読みました。大学教授だった著者が故郷の市長になつて、ようやく分つた役所の仕組みを豊富な具体例から解き明かしています。

その中で、首長（しゅちよう、都道府県や市町村などを率いるトップ）には、将来、「あの時、やつてくれたから今日がある」と言われるような施策、将来につながる施策に取り組んでほしい」、そして、首長の一番の



ご意見・ご感想・ご要望はこちらまで

UD FONT 見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。

もりの 隆を育てる会

たかし

愛知郡愛荘町愛知川 744-1